

平成11年度 和歌山県文化功労賞

さわむら 澤村 テル

住 所：和歌山県橋本市
出 身 地：和歌山県伊都郡九度山町
生 年：大正10年

◎業績及び経歴

大正10年に伊都郡九度山町で生まれた氏は、音楽好きの家庭の中で、幼少の頃より音楽に親しみ、自然に音楽の基礎を身につける。

県立橋本高等女学校卒業後、東洋音楽学校(現東京音楽大学)声楽科に入学するとともに、日本の代表的な声楽家の故四家文子氏に師事、本格的に音楽の道を歩み始める。

卒業後、帰郷し、高野山女学校で音楽教師として教鞭を執るが、結婚を機に退職し、伊都文化協議会が進める疎開学童の慰問団に音楽担当として参加し各地を巡った。

その後、終戦を迎え、氏の活動はさらに活発なものとなる。地元でソプラノ歌手として数多くのリサイタルやコンサートを開催する一方、「音楽人口を増やしたい」との氏の熱い思いにより、音楽教室を主宰し、多くの幼児に音楽の基礎を主にした早期教育を始めるとともに、学生の指導や橋本・伊都地域の多くの合唱団の指導に携わるなど幅広い活動を展開し、現在も混声合唱団「コーラスてまり&ひびき」女声合唱団「メールシャンテ高野口」「グループ金剛」の指導に尽力している。

音楽指導の草分けとして、情熱をもって後進の育成に取り組んだ氏によって育まれた生徒達は、現在、広く各地で活躍している。

こうした活動により、昭和63年に橋本市音楽協会会長に、平成2年には紀北合唱連盟理事長に就任するなど、伊都・橋本地域を代表する音楽家となった氏は、平成2年には橋本市文化賞を受賞する。

近年では、「橋本ふるさとオペラ」の代表として、平成7年にふるさとオペラ「おこんじょうり」の主演上演、平成9年度、10年度には、文化庁の文化のまちづくり事業「今、伊都再発見」の中で創作オペラ「石童丸ものがたり」の企画、上演を行い、自らも出演し、地域に根ざした特色ある芸術文化の創造に努めるなど、精力的に活動を展開している。

「生活の中に音楽を」「正しい日本語で香り高いにっぽんの歌を」をモットーに地域の音楽活動の進展に貢献した氏の功績は多大である。

■現在

橋本市音楽協会名誉会長

■主な表彰歴等

昭和34年 和歌山県音楽教育連盟表彰

平成2年 橋本市文化賞